

令和3年度 岐阜県家庭教育支援推進事業（家庭教育支援員）の活動報告書

◆市町村名

八百津町

◆配属部署

教育委員会 生涯学習係

◆家庭教育支援員の役割

- ・コロナ禍の中、多くの人が集まって活動することに制限がある中、工夫しながらできることを進めてきた。
- ・乳幼児、保育園、小中学校の家庭教育を連携させ、発達段階に応じた活動を進めてきた。
- ・家庭が抱えている諸問題に対し、教育委員会に窓口を設置し、教育相談アドバイザーの派遣など、アウトリーチ型にも力を入れた。

◆主な活動

■乳幼児学級を開催し、乳幼児を持つ保護者への支援及び学級生の交流を図る。

〈乳幼児学級での「いもほり体験」の様子〉

14組の親子、28名の参加があった。
地域の方に提供していただいた畑から、大きなさつまいもを親子で泥まみれになりながら収穫した。地域講師の方から、干し芋や焼き芋をいただき、親子で味わうことができた。
自然体験を通して、子育てする仲間との交流、地域の方に支えていただきながら子育てができる喜びを感じられる活動になった。



■保育園での家庭教育

- ・本町には4保育園あり、4保育園が連携して取り組みを行っている。
- ・合同で「ちびっこ広場」を計画していたが、本年度はコロナ対応のため中止となった。
- ・子育て相談を充実させるため、アドバイザーを定期的に派遣した。

■小中学校の家庭教育

- ・特に「在宅型」を取り入れ、家庭での子育てを中心に実施し、子どもの「家庭での役割」、「自己有用感」を育む活動をした。
- ・タブレット活用が進んだことから、情報モラル教育に力を入れ、他の人の心考えた使い方指導を行った。

◆成果

○本町では、大きく3つの家庭教育が存在するが、子育て支援ネットワーク会議を中心とした家庭教育支援チームの中で連携をはかり、情報交流を行うことができた。

- ・不登校傾向の児童生徒の家庭への支援、ヤングケアラーの実態など、早期の対応につながった。

○保護者のニーズを把握し、現在必要とされている内容を精選して実施することができた。

- ・特に情報モラルに関する意識を高めることができた。
- ・親子での体験活動が多く実施された。

○在宅型家庭教育学級を充実させ、家庭内での子どもの存在の大切さを知る機会となった。

- ・長期休暇中の取り組みとして充実できた。
- ・家庭での取り組みを広げることができた。